

ひびきあい

シニアアンサンブルのための楽器知識

〔16〕オーボエ(Ob)

☆オーボエ奏者は何故少ないの？

シニアアンサンブルの中でFlやCl、Saxの奏者はよく見かけますが、Ob奏者は殆ど見かけません。何故でしょう？ギネスブックによれば木管楽器の中で最も難しい楽器といわれています。

何が難しいかという、Flはエアリード、ClやSaxはシングルリード、ObやFgはダブルリード（2枚弁）のためリードを作成するのが大変なのです。

私もプロの時代はいつも楽屋でせっせとリードを削っていたのを今でも思い出します。

皆さんは一昔前に屋台のラーメン屋（現在はありません）が吹いていた木管楽器を記憶しているでしょう。あの音こそダブルリードです。

シルクロードを渡り中国から日本へ、そしてラーメン屋までたどり着いたのがチャルメラの音でした。

ドレミの3音だけの単純なメロディーでしたから遠くからでもすぐ夜啼きソバとわかり食欲をそそったものですね。



☆Obは音律を変えられない

管弦楽器は作音楽器と言われて、ピアノやハーモニカの音と違ってピッチ（音律）を変えられます。例えば弦楽器は弦の張り具合を調節し、管楽器は管の長さを調節することによって音律を変えますが、Obは構造上、リードの抜き差ししか変えられず、それを演奏当日に変更するのは不可能です。つまり、Obはピッチの変更が難しいので、他の管弦楽器はまずObのAの音に「右にならえ」で合わせるわけです。

但しシニアアンサンブルの場合はピアノのAの音に合わせますが・・・。

☆Obは古代ギリシア以前からあったようです。

聖書でも「笛の音は人の気持ちを引き立たせ、哀しみや嘆きを感じさせた」とあります。

またヘンデルは私は「悪魔にとりつかれたようにObのために作曲した」と言っています。

Obは17世紀中頃に管弦楽用に開発され、ベートーヴェンは、その作品の中で最も美しいパッセージをObに託して書いたようです。18世紀中頃にドイツで半音階のキーシステムが完成し、フランスではオクターブキー等の部品も開発制作されました。

☆カウンタービシなソロには最適です。

チャイコの白鳥の湖やエルガーの交響曲2番第2楽章のように長いフレーズのソロには氣息が少なくすすむこともあり、鼻にかかったような独特の音色で全体を盛り上げてくれます。

ただし、ジャズではソプラノSaxに席を譲っているようです。ジャズSaxについては、アドリブソロの原理と方法など機会があれば原稿を書こうと思っています。

なお、Obの音域は高音域ですが、ダブルリードの中音域にイングリッシュホルン、低音域にFgがあります。但しFgの音域が広い（3オクターブ以上）ので、イングリッシュホルンはあまりオケには登場しません。